

2つのアンケートが示す 新型コロナウイルス感染拡大前後の研究環境

— 前半 —

解剖学会員の男女共同参画に関する
研究環境について

演者：向後晶子

解剖学会男女共同参画推進委員
群馬大・医・生体構造学



3月28日（日）

14：20～15：20

Web 開催

新型コロナウイルス緊急事態宣言下の研究者・技術の
実態調査について

演者：志牟田美佐

生理学会男女共同参画推進委員
東京慈恵医大・薬理



— 後半 —

意見交換会

— 座長 —

城戸瑞穂

解剖学会男女共同参画推進委員
佐賀大・医・生理

西谷（中村）友重

生理学会男女共同参画推進員
和歌山県立医大・医・薬理

— オーガナイザー —

松崎利行

解剖学会男女共同参画推進委員
群馬大・医・生体構造学

齋藤康彦

生理学会男女共同参画推進委員長
奈良県立医大・医・第一生理学



概要

前半は、男女共同参画連絡会第4回大規模アンケートから解剖学会員の回答を抽出集計したデータより、解剖学会員の男女共同参画に関する研究環境等について紹介する。また、2020年の5月に実施された学協会加盟学会、および社会人文系学会を対象とした、新型コロナウイルス緊急事態宣言下の研究者・技術者の実態調査（回答者数11,112名）についての解析結果を紹介する。

後半では、アンケート等の結果を受け、今後の教育研究環境の充実あるいは課題の共有を狙い、自由に意見交換を行う予定である。新型コロナウイルスにより大きな影響を受けているが、意見交換が環境を改善に向けた今後の研究活動への好機にできればと考える。